

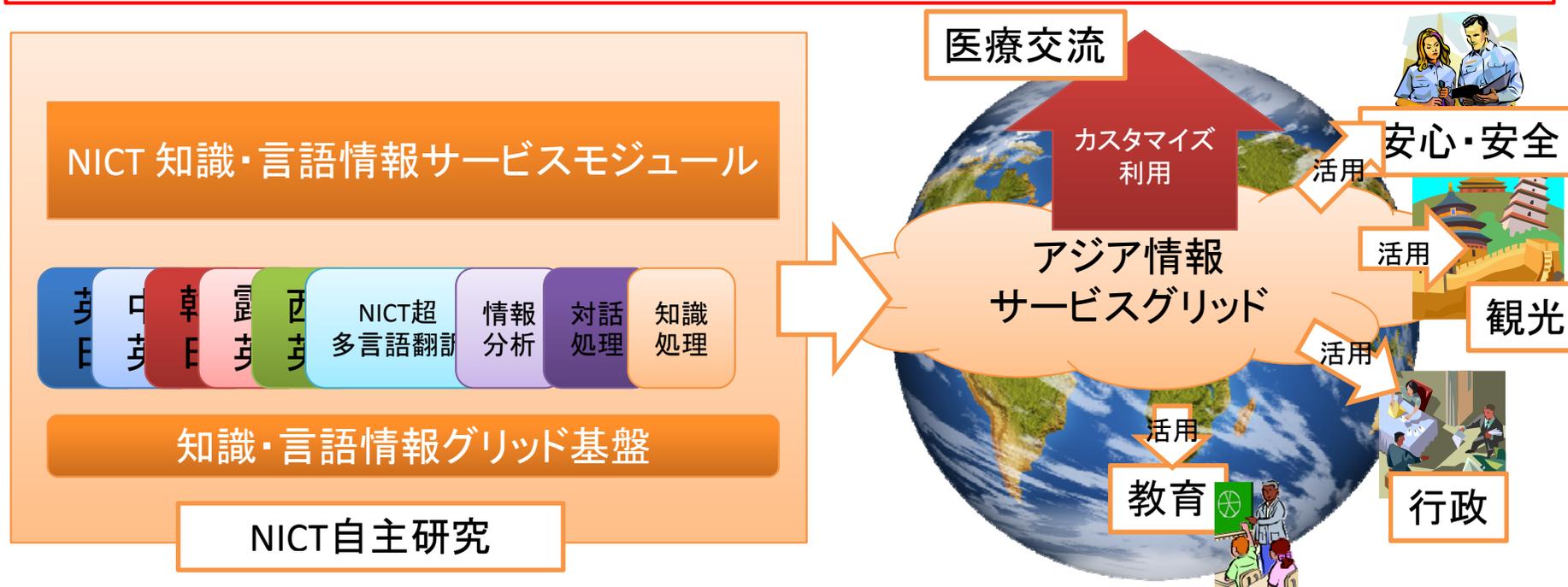
# 知識・言語グリッドに基づくアジア医療交流支援システムの研究開発

情報通信研究機構が開発した知識・言語グリッド技術をベースとして、知識・言語グリッドに基づくアジア医療交流支援システムを開発し、社会的インパクトの大きい医療観光、外国人居住者の医療に資する医療交流支援を実現することを目指す。

- ・医療交流に特化したテキスト・音声等の入出力をもつ翻訳技術、生活支援情報の提供システムの開発
- ・医療交流支援実証実験システムの開発
- ・医療交流支援実証実験システムの実フィールド適用とフィードバック



日本国内のアジア向けの医療交流産業を促進



研究開発期間：平成23年度～平成25年度（3年間）ただし中間評価の結果によって2年間の延長あり  
予算：60百万円（上限、平成23年度）〔採択件数1件〕